

生徒の感想

○ 妹への思い (大会前日)

今日の道徳の時間、発表ができませんでした。はっきり言って涙が出そうになった。それはあの家庭訪問でのお母さんの顔を思い出したから。はっきり言って、家ではM君と同じで僕も同和問題について話し合ったことはありません。たぶん妹は自分が部落の人間だということはわかっていないと思う。家に話を持ち込むのは何より妹のことが心配で話すことができません。妹の心は弱いから峠をまだ越えられないかもしれないという思いがあるからです。どうしたらいいかわからないし、お母さんも話をしようとはしないし……。

歌の練習のときも、涙が出そうになりました。特に「友よ」を歌っているときにグッとこみ上げてきました。明日も自分の気持ちを歌にぶつけていきたいと思います。そして、一人でも心を動かしてくれる人が出てくれたらと思います。

明日の中同研の授業、僕らが燃やしている炎がだれかにつながっていくように、僕らの思いというものをぶつけてみたいと思います。

○ 一つの峠を越えた (大会当日)

今日の授業で悔しかったことがあります。涙のせいで発表ができませんでした。1回目の発表はもっともっと話すつもりだったのに思ったことを頭で考えるだけで涙がこぼれそうになってくるので2回しか発表ができませんでした。でも自分にとっての大きな峠を越えれたと思う。M君やTさんは僕よりも大きな峠に向かっているなあと思った。僕はまだ涙というものを背負っている。お母さん似で、僕も泣き虫だけど、悲しみの涙は流したくないから強く生きたいと思う。

この水平社宣言や水平社宣言讃歌でえたものは、3年B組という固い団結の絆だと思う。一人一人の悲しみが怒りとなり語り、そして支え合っている。今日の授業の終わりに男の先生が僕のところにきて「頑張ったなあ」とか、「よかった」とかいうようなことを言ってくれた。僕はものすごくうれしかった。発表して本当によかったと思った。この先生だけでなくほとんどの先生たちも、この学習の大切さをわかってくれたと思う。この3年B組で、この3年生で、そして板野中学校で燃やしたこの炎を各先生たちが、まただれかにつないでくれたらと思う。

自分の思いを語っていくことによって自分という人間が変わったと思う。2年生に比べて明るくなったと思うし、物事をよく見るようになった。そして、朝がさわやかに感じて、そして人の優しさというものが見えてきたと思う。

一番今日うれしかったことはN君がきてくれたことです。授業中、雑音が横であったとき、N君は微笑んだ。ここに本当に人間性というものを見たと思う。今日帰るときコスモスの花が太陽に照らされていた。まるで僕に勇気をくれているような気がした。

過去を背負うのでなく今を頑張って、未来に希望を持ちながら頑張っていきたいと思う。今日は感動することが多かった。僕は悲しいことではめったに泣かないけれど、嬉しいことがあるとすぐに泣いてしまう。今日の歌のときもそうだった。涙を出さんと思っても、目に涙がたまってくる。前を見ると涙がこぼれそうになった。周りの雰囲気がそうさせたと思う。僕らの歌を目をつぶって聞いてくれる人や、耳を傾けている人、うなずいている人、こんな人たちならと思った。でも見ると、無関心な人も中にはいたように思う。こんなに一生懸命になっているのに眠たそうにしていた人がいた。はっきり言って腹が立った。こういう人たちにこれからも訴え語りたいと思う。

これからも悲しさでなく嬉しさで、そして歎くことよりも怒る気持ちで、これからも峠を越えていきたいと思う。支え支えられてこれからも自分というものを見つめて、そして頑張っていこうと思う。

今日昼からの発表のために武道館へ行くとき、女の先生から声をかけられた。「感動しました」と言ってくれた。僕は「学校に帰ってからも同和教育頑張ってください」と言った。後でもっといろいろな話をしたらよかったと思った。でも多くの人の心が動いてくれたのが嬉しい。こう言ってくれる人たちは学校に帰っても頑張ってくれると思う。僕も人任せにならないように頑張っていくつもりです。

果てしない、そして長い道のりをこれからも光をたっぷり浴び、空気を思いっきり吸って、仲間と共に歩み、足踏みすることがあっても、弱音をはかず、希望のゴールへと進む。

○ 熱い勇気（大会前日）

明日はいよいよ中同研だ。プレッシャーはあるような気がするけれど心の中には熱い勇気のようなものがある。その勇気の源はみんなの存在だと思う。私は勇気を出して発言したら、必ずみんなが応えてくれる、みんながいるからどんな状況にあっても頑張ることができる。みんなの顔を思い出すだけで、私にはできないことはないんだという気持ちになっていく。みんなと共に堂々と胸を張って語り他の学校の先生方に強い感動を与えていきたい。そしてその先生方がそれぞれの学校でこの板野中学校でなされたような、徹底した同和問題学習に取り組むようになってくれればと思う。「訴えることにより道は開ける。そして、人間は必ず変わる。」この先生の訴えを私たちは自分自身の行動を通して実感することができた。郡同研までの私たちの変容、郡同研からの私たちの変容、そして全道研という大きな峠を越えてからの私たちの歩み。みんなと歩んできたこの学習の意味をしみじみと考えながら、明日は思いきり私の思いをぶつけていく。

明日も生活ノートにいっぱい書きますから、先生いそがしいと思うけど読んでください。

○ すごい絆（大会当日）

今日は県中同研だった。知っている先生もたくさんきていた。緊張感は少しもなかった。昨日の夜も授業のことを考えていると言いたいことがいっぱい出てきた。今日の授業はもっと言いたいことがあった。やっぱり50分という時間は短かすぎた。

私はこの授業で成長して行く自分に気づいた。3年B組というクラスと出会うまでは、手を挙げて発表するということができなかった。でもみんなと出会ってからは自然に挙手できるようになった。私自身こんなに友を信頼したのははじめてだ。自分の思いのすべてがぶつけられるというぐらい信頼できた仲間、私たちはすごい絆で結ばれていると思う。

今日の授業で、今までやってきた同和問題学習のすべてが水平社宣言にあてはまると思った。水平社宣言は私にとって大きな支えとなっている。3年B組の絆もこの水平社宣言により固いものになっていったと思う。

○ 何かを残せた（大会当日）

中学校最後の公開授業にふさわしい授業だった。クラスの3分の2以上が発言したし、やっぱり3年B組でよかったと思った。そして「水平社宣言讃歌」についても最高の授業だった。B組だけでなく他のクラスの授業もすばしかったと他のクラスの友だちから聞いた。本当によかったと思う。

今日の授業中、冷たい床に正座して一生懸命メモしている先生や、人垣の後ろからビデオカメラを持った手だけ上に挙げて撮影している先生がいた。授業が終わって涙を浮かべている先生もいた。そんな先生を見ていると、「私たちは何かを残せた」という気持ちになって嬉しくなった。

昼からの3年生全体の発表、「友よ」の曲を歌っているとなぜかジーンとなって曲が終わるのがとても早く感じられた。歌が終わった後でOさんが私に「一番前に座っていた人が、何回もうなずきながら聞いてくれよかったよ。私、感動してその人ばかりを見ていた」とニコニコしながら教えてくれた。こんな機会に出会えて本当によかった。私たちの授業や発表を見た先生方は、各学校に帰って授業や発表のことをみんなに伝えてくれると思う。そこからまたこの取り組みが広がっていくことを望みたい。今日は全道研以上というぐらい清々しく授業が終われた。でも絶対に50分は少な過ぎた。もっともと言いたかった。

余談ですが、A組のH君は授業後参会の先生に握手を求められたそうです。私も阿波中の先生に「陸上しよるEさん」と聞かれました。その先生は後で知りましたが、今高校1年で去年県中学のトップにいた先輩のお父さんだそうです。ちょっとうれしかったです。

○ 悲しみの涙から喜びの涙へ（大会当日）

今日の授業は今までの授業の中で一番緊張した。郡同研のときは緊張より、不安の方が大きかってあまり緊張はしなかった。今日の授業は始まる前から体が震えてきてすごく緊張した。

郡同研のときに私や他の人が流した涙は悲しみの涙だったと思うけど、今日のI君の涙は喜びの涙だった。私もこの学習をしてきてよかったと思う。自分自身が大きく成長したと思う。

昼からの発表で「友よ」を歌っているとき、郡同研のときのことを思い出していたら、3年B組のみんなと出会えたことが嬉しくて、もう少ししたらみんながバラバラになることがつらくて涙が出そうになった。

まだまだいろんな不安があると思うけど、みんなで頑張ったこの学習のことを思い出して、もし差別されても下を向かずに胸を張って堂々と自分の意見が言える人間になりたいと思う。今の自分ではまだまだなのでもっと勉強していきたい。

今まで家族とこの問題について一度も話し合ったことがないので、またお母さんやお父さんとも意見を出し合いたい。妹はまだ自分が部落出身ということをたぶん知らないと思う。妹のこのことを言った方がいいのか迷っている。

○ 差別解消への大きな一歩（大会当日）

今日は一番多く発表した日でした。とにかく今日は最初からどんどん発表していこうと思っていました。郡同研のときに授業の後半、手を挙げ続けたにもかかわらず、みんながいっぱい手を挙げていたためあててもらえず時間がきて自分の言いたかったことが発表できなかったことが頭にあったからです。その郡同研の反省があったことによって、今日は自分なりに僕の腹の中にあることを思いきり発表できた授業となりました。

今日の授業の終わりのところで、N君とT君が手を挙げて発表したとき、郡同研や全道研の感動と今日の授業での感動が重なって、嬉しくなってきました。みんなでこの学習に取り組んできてよかったなあとしみじみ思いました。発表してくれた内容もすばらしかったけど、その内容よりも多くの仲間が手を挙げて堂々と語っていくというところに大きな意味があったと思います。

今日の授業が終わって帰ろうとしていた時、男の先生が「もう帰るん」と声をかけてくれました。僕は「12時30分に体育館で歌を歌いにきます」と応えました。その先生はにっこり笑って「頑張れよ」と言ってくれました。僕は何か知らないけれど無性に嬉しくなりました。たぶん僕たちの授業を見ていた人だと思うけど、一人でも多くの人がこの学習の大切さをしみじみとわかり、学習に自分のすべてをぶつけて頑張っていこうという気持ちになってくれれば、差別解消の大きな一歩を踏み出せると思いました。

○ 人間が変わる（大会当日）

今日の授業は、郡同研の時に比べて胸張って受けられたと思います。涙なんか流さなかったし、私もI君みたいにうれし涙が出そうでした。人間が変わるとは、こういうことを言うんじゃないかなあとと思います。KさんやMさんやSさんやI君も、それから私ももう悲しみの涙は絶対に流さないとはいいます。

○ 一人がみんなのために、みんなが一人のために（大会当日）

徳島県中学校同和教育研究大会が終わりました。本当にKさんが言ったようにアッという間の50分間でした。私は前の方の席なので、みんながパッと手を挙げるところが見られませんでした。でも聞いていたら一つのときれもなくどんどん意見をつなげることができました。やっぱりここで3年B組のつながりがどれだけ深いかということを知ることができました。

何人かの人が言っていたけど「人は周りの影響で変わってしまう。」と私も思いました。もし周りの人たちが部落の人たちに対して、他の人たちと違う目で見えていたら、やっぱりその人たちも部落に対していい感情はないと思います。でも、周りのみんなが「差別をなくそう！」と本気で心の奥から思っているのであれば、その人もみんなに負けず頑張っていくと思います。

実際、私は2年のとき発表するといったら、うつむいて資料の学習プリントを読んでいたの発表でした。それが今、堂々と前をしっかりと向き語ることができたのは、3年B組のみんなのおかげであり、先生のおかげでした。私に少しずつ勇気を与えてくれ支えてくれました。本当に3年B組のみんなに「ありがとう」が言いたいです。3年B組は前よりも今がまたすごく信頼できるようになりました。部落に生まれた人、そうでない人、そんなのは関係なしにみんなこの学習にいっしょになって取り組む姿はきっとすばらしいと思います。「一人がみんなのために、みんなが一人のために」という言葉があるけど、まさしく3年B組にぴったりの言葉だと思います。今日の授業だつとぎれがなく本当に次から次へと発表して、今までなかなか発表できなかった子もしっかり思いをぶつけてくれました。すごく成長したと思います。この授業、本当にやってきてよかったと思います。みんなのこのつながりが、これからも、高校に入っても、またこの先ずっと切れることないものになればと思います。今日の授業、本当によかったです。

昼から歌があって歌い終えての感想は、すごくすっきりしてさわやかな感動にひたることができたということです。特に「友よ」の声がすごく大きくてよかったと思います。歌い終えたとき、周りの人たちが拍手してくれてうれしかったです。前の「サイン」のときよりは、沸き起こり方がすくなくなかったかもしれないけど、やっぱり心からの拍手はうれしいです。

○ 学校の先生になりたい（大会当日）

以前から、将来の夢の中に学校の先生になりたいというのがあった。今思うと今までは普通の先生にあこがれていたんだと思う。でも今は違う。先生になりたいという夢は同じようにあるが、同和問題に必死に取り組んでいく先生になりたい。この思いは3年生の先生方を見ていて思うようになった。僕は同和問題に必死に取り組む先生方や周りのみんなの姿を見て嬉しくてたまらない。もし同和問題の学習がなかったら、自分を語ることも、自分をさらけ出すことも、自分が部落に生まれたということを誇りに思うこともなかったと思う。僕はこの学習の中で自分の意見なども思いきり表現できるし、語れるようになった。僕が3年生の先生方に同和問題に関わる生き方をつかませてもらったように、いつか学校の先生となって、人間として同和問題に関わってどのように生きていくかを生徒たちに語っていくことができるようになったらなあと思う。その日を目指してこれからの一日一日を誠実に精一杯に生きていきたい。

○ 悲しむ人がなくなるように

今日の授業本当に良かったと思います。私は、あまり発表できなかったけどみんなの意見をたくさん聞くことができうれしかったです。「自分は、部落出身です」といってくれた友だちがいました。そのことばを言ってくれると何故かともうれしくなります。信用してくれているんだあ、私もその思いにこたえていきたいという気持ちでいっぱいになってきます。やっと団結することができた3A、このクラスみんなとがんばれて本当に良かった。そして、悲しむ人が一人でもいなくなるように、これからもがんばっていきたい。2年の頃は、ただ単純に「差別はいけない。」としか思っていなかったけど、今は、心の底から差別にたちむかっていく自信があります。この学習を一緒にがんばったみんなのことを支えにして、生きていきたい。



○ 一人でも多くの先生に

今まで、何度も何度も全体学習をしたり、クラスで授業をしたけど、今日ほど苦しくて、胸がしめつけられる思いをしたのは初めてです。H君が、何度も何度も話をしても、部落問題に対して関心のない人、否定的なことを言う人に、力でおさえるということを言ったけど、私は、何もいわず、何もせず、耐えると思います。でもそれが、一番いけないことだと、私自身わかっているんです。そして、Mさんの部落宣言、SさんへのMさんのことば、Mさんの思い苦しみが伝わり涙まで出そうになりました。人のことが自分のことのように思えて悲しくなったのは、今日のこの授業がはじめてのような気がします。私自身の発表したことは、緊張して、何を言っているか分からなくなり、自分でも何をいったか覚えていません。けれど発表して、自分の思いを言っただけで重い心がらくになりました。そして、昼からの全員合唱、歌っている時、みんなのことを考えると歌っている声かふるえてきました。詩を読む時は、心をこめて精一杯言っただけです。来ている先生全員にわかってもらえるとは思っていないけど、一人でも多くの先生にわかってもらえたらって思っています。

○ 自分が変わる

私は、19日、全部の気持ちと言えて、気分が晴々としています。教室の中で思わず涙がこぼれてしまいましたが、私の言ったこと、みんなの発言は、たくさんの先生方の心をとめたのでしょうか。あれだけ、みんなが自分の気持ちを言ったんだからわかってもらえますよね。私は、まだまだ勉強不足です。全体で合唱したときも、心の中に何かわきあがってくるものがありました。それは、全体学習のこと、部落差別のこと、たくさんの先生方にわかってもらいたい、それを心から思っています。先生、このごろ、私は自分が変わるのが手にとるようにわかるんです。こんな自分はじめてです。

○ 涙の出るような授業

授業が始まる前、どんな人があつまるのだろうかと考えていました。席が後なので、自分の意見をしっかり聞かれると思い緊張していました。でも、授業が始まると同和問題の中にうちこんでいくことができ緊張のかけらもありませんでした。本当にあの授業は、クラスの全員がとけ込んでいました。一番最初にJ君がいきなり手を挙げたので、これは、僕もがんばらなあかんと思いました。中でも特に感動したのはふだん一つも手を挙げなかったH君ががんばって手を挙げ発表した時でした。声は小さかったけど、手を挙げて発表してくれた時は、自分が手を挙げた時のようにうれしかったです。本当に涙がこぼれるような授業ができたこと、それが、何にもましてうれしい。

○ 熱くなった自分

今までの同和問題で、これほど熱くなったことがあったらと思う。最初は発表しようと思ってもなんか手を挙げづらかったです。でもB子さんの言葉で勇気が出ました。B子さんに勇気づけられる僕が今、思えば少し情けないです。一回の発表でもう発表やめどころかなと思っていました。でもE君やA子さんに圧倒されて僕もやらなあかんと思い二回目の発表をしました。二回目は本当に今までの自分を情けなく恥ずかしく思いました。それと緊張と感動とが重なり合って涙が出そうになりました。男のくせに涙もろい僕だけど同和問題学習で涙が出そうになったのは初めてで、しかも少しも恥ずかしい気がしませんでした。そして僕は今までの自分を変えなあかんと思っただけ、今なら変えれそうな気がしました。1回でも心の底から熱くなれたので、この自分を忘れないようにしたいです。そして僕たちを苦しめている部落差別を絶対に、絶対になくしたいです。



○ 部落解放のともしび

今回の中同研の授業が本当に、今まで同和問題学習をやってきた中で一番、熱くなりました。私のクラスがこんなに燃えあがって、みんなが一つになれたのは、やっぱり同和問題学習をやってきたからだと思います。本当に心に残りました。そしてこのことを、母に話すと『今の若い子たちが、こうやって学習していきよったら、ちょっとずつなくなっていくわなあ。お母さんの時代はほんなん学習しよらんかったけん、古い考え方やったけど、時代が変わってきよるけんなあ。今の若い子が、こうして一生懸命に学習しよったら少しづつ、なくなっていくわなあ。』と今まで私の言うことに耳をかせてくれなかった母からは想像もつかない答が返ってきました。私は、これでやっと私の家族の中に「部落解放のともしび」をともすことができたように思います。私の訴えが、部落出身の友の訴えが、母の心に通じたんだと思います。私は、この母の言葉を聞くと、なんか、うれしくて涙が出てきました。本当に部落問題学習をやってきて良かったと思います。一番、良かったと思うことは、やっぱり、本当の友だちがたくさんできたということです。自分を全部さらけ出せる友だちができたということです。部落問題学習をしなかったら、今、私は、うわべだけの友だちとつき合っていて、心の底では一人ぼっちだと思います。私は今、本当に改めて思いました。3年

D組の生徒であって、板野中学校の生徒であって。部落問題を真剣に考えない人たちに、自分の意見をこれからも、はっきりと語り続けていきたいと思います。友の命を大切に……。

○ 悲しみの涙が喜びの涙に

私は、まだまだ弱い人間です。部落とか部落出身という文字を読んだり、口にしたりすると、なんでか理由もわからず涙が出てきます。何で涙が出るんだろうと思ってみただけで、これという理由が出てこないのです。みんなが、こんなに一生懸命、部落差別について考えているということ、しみじみと実感できました。みんな、「Mさんを支えていきたい。」とか「大切な仲間なんだから。」とか、いっぱい言ってくれて本当に嬉しくて、涙が止まりませんでした。誰かが“悲しみの涙が喜びの涙に変わるまで”と言っていたけれど、その時の私は、すっばりその言葉にあてはまったような気がします。なんか今、授業を終えてからの私は、勇気もくもくとわいています。仲間ってこういうものなんだという実感をしみじみと感じています。先生、一番、最高の授業でしたよね？

多分、絶対、このことは忘れないと思います。すごくみんなに、「ありがとう。」って言いたい気持ちでいっぱいなんです。こんないいクラスで良かった。今、そう思っています。

○ 今は泣いている時ではない

今まであんなにみんなの真剣な気持ちを知ることがあったらどうか。と思いました。それに自分もみんなの前で、あんなに言うことができました。泣くつもりはありませんでした。でもこれまでの自分がしてきたことの恥ずかしさとかくやしさとかいろんなことがあふれ出しました。E君の言ったように「今は泣いている時ではない！」と私も思います。だからこれまでの自分を反省し、流す涙はあの時一度だけ、同情の涙なんか流さない！と決意しました。これから友だちが差別によって涙を流すことのないようにしていきたいです。まだまだ私たちがしていく運動は“これから”だと思っています。99人走ったとしても一人だけ歩く。というのではなくて99人の中から一人でも多く、一人の私の方によせれるようになりたいです。

○ 良い生き方を

昨日の授業は、みんなが真剣になって考えていたと思います。やっぱり思うのは、本音を語ることによって人の心が変わられるということは、素晴らしいと思います。昨日の授業では堂々とはっきり意見を言っている仲間たちがたくさんいました。この大きな研究授業で、みんなが、がんばり良い授業となって良かったと思います。ある一人の友が涙をためながら語っていたけれど、そんな一人でも涙を流さずにはいけないと思います。一人でも悲しい涙を流さない世の中をみんなで作っていかれたらと思います。「生きるのが下手であってもよい。」「良い死に方をするためには良い生き

方をしなければならない。」という言葉が今まで学習してきた同和問題学習の中で一番、心に残っています。これからも、仲間たちといっしょに差別と闘い、共に頑張っていきたいと思います。

○ もっと発表したかった

今日の公開授業は言葉では言い表せないぐらい感動しました。今まで発表したことのない子どもんどん手をあげて、し～んとした重苦しい感じがなくみんなが支えあうことができたと思います。私も意見を言うことができ、時間のたつのが早く感じました。友だちが「もっと発表したかったなあ。」とか言っている子もいました。仁木先生も言っていたけどこれで終わったんじゃない。今日からまた始まったということを忘れないで差別に立ち向かっていきたいです。今日はみんなが輝いてみえました。闘いの炎が燃えているようでした。仲間と一緒にがんばったこの一日は、決して忘れないと思いました。



○ 苦しい峠を

県同和教育研究大会が今日ということで、そんなに緊張しませんでした。はじめから「よっしゃ、やるぞ!!」という意気込みでした。そして一番最初に意見を言うことができました。手を挙げる前は、いつもみんなにまかせてばかりだったので、今日こそはみんなをひっぱっていけるように……とそればかりでした。そしてスッと手を挙げることができました。みんなも引き続き言ってくれました。O君やN君までがいつもよりがんばって、50分という感動的な授業でした。3Eになってから公開授業や学級での授業をしてきたんだけど、今までで一番最高の授業だったと思います。本当に3Eみんなが苦しい苦しい峠をやっと乗り越えられたように思います。今から始まったばかりかもしれないけど、今日という大切な時間を支えにこれからもっともっと勉強していかなければいけないと思います。

昼からは全体合唱があり、これも緊張しませんでした。本当に先生も言っていたように堂々としていました。私は他の学校の先生方に何か少しでも心にジーンとくるように「友よ」の歌を人に訴

えるように精一杯歌いました。自分が思いっきり歌っていたから、全体の声は聞き取りにくかったけどみんなも私と同じく精一杯歌っただろうと思います。全部が終わった後のスッキリ感は本当に生涯忘れられないものになっていくと思います。「友よ」はますます好きになってきました。学校の帰りにも、頭からはなれなくてついつい3番まで口ずさんでしまいました。私はこの板野町の板野中学校の一人として本当に本当によかったです。これからもこの板野町を愛し続けて、友を大切にしていきたいです。

○ 団結できた日

いよいよ県中学校同和教育研究大会の日がきました。体の調子が悪くてすごくせこかったけどがんばりました。

「水平社宣言」に出会えて本当によかったです。人間としての本当の生き方を教えてくれ、また、私たちに勇気をあたえてくれた資料でした。

授業が始まるまで体がぶるぶるふるえ、落ち着きませんでした。でも周りのみんなを見渡すにつれて落ち着いてきました。Mさんから始まり、みんなの発言をいろいろと聞いていく中で本当に感動してきました。日頃あまり言わない子がすごくいい発言をしているようで、自分も負けてはいけなと心の中で励ましあっていました。

「人の世の熱あれ 人間に光あれ」人間は尊敬し合わなければいけないんだ。2年生の最初にやった「渋染一揆」の授業で「団結」という言葉を学習しました。今日は私にとってみんなにとって団結できた日だったと思います。

小学校の時は同和問題といっても私には関係がないことだと思い続けていた自分が、このごろすごく恥ずかしいと思うようになりました。でも今では、絶対に差別からはもう絶対に逃げません。私は絶対に差別がなくなる日まで熱い炎を燃やし続けながら闘い続けます。

昼からの全体学習では、「友よ」を本当に練習の時よりずっと大きな声で歌えていたと思います。今までの取り組みをまた明日からあらためて真剣に取り組めるようにしたいです。

○ 自分を変えてくれたもの

本当にみんながんばった。最高の授業だった。初めて発表する友だちがいた。また仲間が増えたような気がした。あの時、3年E組のクラスが一つになった。みんなが「水平社宣言」という一つのものに取り組んでいた。なんか、やっぱりE組っていいなあと、改めて感じた。たぶんみんなも同じだと思う。授業中寒かったけど、寒さなんかとんでいった。逆に熱くなってきた。みんなの意見を聞いていると私も発表したくなった。もしあの時発表していなかったら一生後悔していたと思う。おかげさかもしれんけど……。いままで学習してきてやっと峠をこえられたように思う。これからもずっとずっと続けて峠を越えていきたいと思う。もっともっと熱くなりたい。私にとってあの授業は今までの自分を変えてくれたものであり、それはみんなも同じだったと思う。たった1時間だったけど、すごく大きな大きな授業だったと思う。

○ 本格的なスタート

今日は最低2回は発表しようと思っていたのに、結局1回しか発表できませんでした。いつもは真剣に考えられていなかった子も、今日は何度も発表したり心に残るような発言をしたりしたので、「やっぱりやる時にはみんな真剣になれるんだなあ。」と思いました。ぼくは今まで勉強してきてやっと真剣に考えていかなければいけないということに気付けたから、これで同和問題学習が終わるのでなくてももっともっと続けていかなければならないと思いました。今日の授業がぼくにとって同和問題学習の本格的なスタートになったと思います。だから今までやってきたことを足場に力をもっと入れていきたいと思います。

○ 勇 気

今日はすごく緊張しました。はじめ手を挙げる勇気がなかったんだけど、みんながどんどん発表していくうちになんか言いたいなあって思いました。みんなが私に勇気をあたえてくれるような気持ちでした。だから私も誰かに勇気をあげたくくなりました。

一番感動したのはN君の言ったことです。何て言っているかわからないけど、自分が恥ずかしくなって顔が赤くなってきました。今一番この学習をしてきてよかったと思います。いつまでもいつまでもこの学習で学んできたことを思い出してがんばりたいです。今まで発表しなかったことを後悔します。今度は前向きになって進んでいきたいです。

歌を歌う時は精一杯歌いました。みんなにつられて自然に大きな声が出ました。みんなと学習してきてよかったです。そして、私の考えを変えてくれた「水平社宣言」に感謝します。このことは一生忘れません。もう、一人でも大丈夫かなって感じです。

○ 発表することの大切さ

私はこの授業でものすごくいろいろなことを学びました。まず「発表することの大切さ」を学びました。たくさんの人に私が言いたいことを言って、それからこの授業のことを各先生方の学校で広めていってほしいということからも発表することは大切だということを知りました。それと自分の心の中にある意見を言う「勇気」を学びました。私が手を挙げられたのはみんなのおかげです。みんながどんどん発表していくのを見てみると、私も絶対発表しなければならないと思いました。そしてMさんが小さな声で「発表しー」と言ってくれたのおかげです。発表するまでの間心臓がドキドキして、足はガクガクしてものすごく苦しくて苦しくて、でも、この気持ちは私だけではないと思いました。とくにYさんは何回も発表していたからこれ以上に苦しかったに違いないと思いました。この緊張をクリアして、自分の言いたいことを言ったとき、やっぱり発表してすごくよかったと思いました。発表した後は「やったー、ついに発表できた!!みんなありがとう。これで私はまた一歩、差別解消への階段を登れた。」という気持ちが一杯でつい笑ってしまいそうになりました。